

国立学園小学校4年桜組 山田 紘子

安全でおいしい水が届くまで

国立学園小学校 四年桜組

山田 紘子

「シトシトシト」

その日は雨がふって、夏にしては少し肌

寒い日でした。東京都奥多摩町にある小河内

ダムにはふあふあとしたきりが立ち込めてい

ました。貯水地には雨によって細かい波紋が

いくつも作られ、今にも仙人が登場しそうな



雰囲気でした。

「あ、見えた。あれが水道水源林だ」私は

さげびました。きりの切れ目から見える森林

はとても濃い緑でした。景色に感動している

と、妹が「ねえ、お姉ちゃん。奥多摩・水と

緑のふれあい館に早く入りたい」と言いまし

た。私は小河内ダムのことを詳しく勉強した

か。たので、「そうだね」と言っていて、上

に建物の中に入りました。

入り口近くに奥多摩の歴史、民俗を展示す

るコーナーがありました。入ってみるとお母
 さんが驚いた表情をしていました。一ど
 たのーと聞くと、奥多摩の伝統の一つの車人
 形を紹介するかべに、私のひいおじいちゃん
 のお兄さんが写る写真が飾ってあつたので
 りりしい顔で車人形を力いっばい動かして
 ました。ひいおじいちゃんのお兄さんは有
 な車人形の操り手だつたそうです。
 おばあちゃんに話を聞くと、ひいおじい
 ちゃんもそのお兄さんも兄弟はみんな昔、
 小河



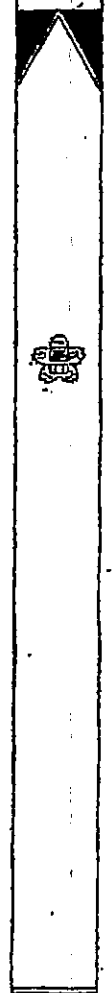
内の村に住んでいました。小河内ダムの建設
 の時、村は水没するので、他のまちに移住し
 たというのでした。ひいおじいちゃんは私
 が小学十年生の時に亡くなりましたが、おば
 あちゃんの家にはひいおじいちゃん
 の部屋がそのまま残っています。部屋には一湖
 底の村
 ーという本が残されており、当時の村の様子
 が分かる写真がたくさんあつていました。
 人口が急激に増えて、使われる水の量も増
 えため、昭和の初めにダムの建設が始ま

たといいます。私はひいおじいちゃんヤが小河
 内の村に住んでいたことも今回勉強するまで
 知りませんでした。なんだかとても身近に感
 じ、こういって歴史があつて東京の水は支え
 ざれているのだと実感しました。
 ふれあい館では、水道水源林についでこの展
 示も数多くありました。きれいな水が届けら
 れているのは、ダムだけでなく、多摩川上流
 域の管理された森林が必要で森林す。森林には水
 を蓄えたり、きれいにする役割のほか、土石
 流出や山崩れを防ぐ効果もあるからです。



豊かな水を作る森林にするには、森林づくり
 の活動が欠かせないといえます。生育の悪い
 木を切る間伐や余分な木の枝を落とす枝打ち
 などをして、光を入れ、明るい森林にします。
 多摩川水源森林隊という組織があり、ボラン
 テアアの方が協力して手入れをして下さつて
 いるそうです。きちんとして管理された森林と小
 河内ダムがパートナーとなり、東京で暮らす
 人々のための水を蓄えているのです。

私は幼稚園の年少までベトナムで暮らして
 いました。ベトナムでは水道から出てくる水
 を飲んではダメと言われ、ミネラルウォーター
 ののタンクからいつも水をくんで飲んでいた
 のを思い出しました。蛇口をひねると当たり
 前にきれいな水が出る日本。これは恵まれた
 ことなのだと思います。でもよく分かり
 ました。



自分の先祖の歴史や水道水源林を守る人々
 など、この夏に東京の水について深く学がこ
 とが出来ました。改めて水を大切に使うと
 いう気持ちが強くなりました。

Blank lined writing area for page 8.